



平成27年5月15日

各位

会社名 株式会社東理ホールディングス
(コード番号 5856 東証第2部)
代表者名 代表取締役社長 福村 康廣
問合せ先 取締役副社長 藤原 克英
(TEL. 03-5524-7851)

特別損失等の計上、平成27年3月期通期業績予想数値と実績値との差異 並びに剰余金の配当に関するお知らせ

平成27年3月期の連結及び個別業績予想数値と比較して、本日公表の決算において、特別損失等の計上により、下記のとおり差異が生じたので、お知らせいたします。また、本日開催の取締役会で期末配当原資を利益剰余金とすることを決議しましたので、お知らせいたします。

記

I. 特別損益等の計上について

1. 特別利益の計上

個別業績のみに反映されるもの

- ・子会社(株)エスジーエヌ吸収合併による抱合株式消滅差益・・・2百万円

連結・個別業績ともに反映されるもの

- ・当社への消費税等の還付金及び還付加算金・・・203百万円

連結業績に反映されるもの

- ・子会社(株)東京理化工業所への消費税等の還付金及び還付加算金・・・37百万円
- ・子会社(株)東京理化工業所の固定資産売却益・・・2百万円

2. 特別損失の計上

個別業績のみに反映されるもの

- ・子会社(株)なごみ設計に対する子会社株式評価損・・・49百万円
- ・子会社(株)創育に対する投資損失引当金繰入・・・300百万円
- ・子会社(株)創育に対する貸倒引当金繰入・・・20百万円

連結・個別業績ともに反映されるもの

- ・弁護士費用計上・・・21百万円
- 連結業績に反映されるもの
- ・子会社(株)東京理化工業所での弁護士費用計上・・・1百万円
- ・子会社(株)ボン・サンテの解決金・・・24百万円
- ・子会社(株)創育の事務所移転損失・・・57百万円
- ・子会社(株)創育の事務所移転に伴う減損損失計上・・・8百万円

3. 営業外収益の計上

個別業績のみに反映されるもの

- ・貸倒引当金戻入・・・12百万円

連結・個別業績ともに反映されるもの

- ・有価証券運用益・・・68百万円
- ・償却債権取立益・・・78百万円
- 連結業績に反映されるもの
- ・子会社(株)東京理化工業所の不用品の売却益・・・7百万円
- ・子会社(株)グローバルフード&リカーサプライの転貸不動産賃貸料・・・26百万円
- ・子会社(株)ボン・サンテの通貨及び金利交換取引契約による利益・・・61百万円

4. 営業外費用の計上

連結業績に反映されるもの

- ・子会社(㈱グローバルフード&リカーサプライ)の転貸不動産賃借料・・・24百万円
- ・子会社の控除対象外消費税・・・7百万円(㈱ウィッツ)、4百万円(㈱ボン・サンテ)

II. 業績予想との差異について

1. 通期業績予想数値と実績値との差異 (平成26年4月1日～平成27年3月31日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	18,877	143	422	500	5円35銭
今回実績 (B)	18,974	125	397	483	5円21銭
増減額 (B-A)	96	△18	△24	△16	—
増減率 (%)	0.5	△12.8	△5.9	△3.4	—
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	20,651	308	617	451	4円85銭

2. 個別業績予想数値と実績値との差異 (平成26年4月1日～平成27年3月31日) (単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	708	144	305	464	4円98銭
今回実績 (B)	709	153	298	115	1円24銭
増減額 (B-A)	0	9	△6	△349	—
増減率 (%)	0.1	6.6	△2.1	△75.2	—
(ご参考)前期実績 (平成26年3月期)	865	123	495	467	5円02銭

3. 業績予想と実績値との差異の理由

(1) 連結業績について

売上高が前回の予想を上回り、営業利益、経常利益及び当期純利益が下回りました。その主な理由といたしましては、売上高につきましては、ダイカスト事業(73百万円)及び教育事業(87百万円)における増加によるものであります。営業利益につきましては、売上高の増加があったものの教育事業における粗利益率の悪化及び販売費及び一般管理費の増加によるものであります。経常利益につきましては、教育事業における粗利益率の悪化、販売費及び一般管理費の増加及び控除対象外消費税などの計上によるものであります。当期純利益につきましては、教育事業における粗利益率の悪化、販売費及び一般管理費の増加、控除対象外消費税の計上及び法人税等調整額の計上によるものであります。

(2) 個別業績について

売上高及び営業利益が前回の予想を上回り、経常利益及び当期純利益が前回の予想を下回りました。その主な理由といたしましては、売上高につきましては、子会社からの受取利息が増加したことによるものであります。営業利益につきましては、子会社からの受取利息が増加及び販売費及び一般管理費の減少によるものであります。経常利益につきましては、子会社からの受取利息の増加、販売費及び一般管理費の減少など利益の増加要因がありましたが、貸倒引当金繰入額などを計上したことによるものであります。当期純利益につきましては、子会社からの受取利息の増加、販売費及び一般管理費の減少など利益の増加要因がありましたが、営業外費用で貸倒引当金繰入額などの計上、特別損失で投資損失引当金繰入額及び子会社株式評価損などの計上によるものであります。

Ⅲ. 期末配当の原資について

1. 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (平成 27 年 2 月 12 日公表)	前期実績 (平成 26 年 3 月 期)
基準日	平成 27 年 3 月 31 日	平成 27 年 3 月 31 日	—
1株当たりの配当金	1円50銭	1円50銭	2円00銭
配当金総額	130 百万円	—	—
効力発生日	平成 27 年 6 月 26 日	—	—
配当原資	利益剰余金	—	—

なお、本件は、平成 27 年 6 月 24 日開催予定の定時株主総会において正式に決定される予定であります。

(参考) 平成 26 年 5 月 15 日付 「平成 27 年 3 月 期 決算短信〔日本基準〕(連結)」
平成 26 年 11 月 13 日付 「特別損益の計上等、平成 27 年 3 月 期第 2 四半期業績予想と実績との差異、
通期業績予想の修正及び剰余金の配当に関するお知らせ」
平成 27 年 2 月 12 日付 「特別損益の計上等、平成 27 年 3 月 期通期業績予想の修正及び配当予想の
修正に関するお知らせ」

以 上